

事務事業評価表（一般事業）

評価対象年度	平成 25 年度
1次評価日（主幹等）	26年 3月 31日
2次評価日（課長等）	26年 3月 31日

1 事業名	美術考古館展示事業	コード	111114
-------	-----------	-----	--------

2 担当部課	部等	教育部	課等	生涯学習課（博物館）	作成者	両角 加代子
--------	----	-----	----	------------	-----	--------

3 事業概要	目的体系	基本目標	生涯を通じて学び、豊かな心を育むまち		
		政 策	文化・スポーツの振興	施 策	文化・芸術の振興
		予算科目	美術考古館展示事業費	業務委託	なし（直営）
		実施義務	なし（選択的事業）	国県補助	なし
		根拠法令	博物館法第3条1		

●事業の内容（D0）

4 事業の概要等	*対象者（誰のため）、意図（どのような状態にしたいのか）		
事業の概要 （簡潔に）	魅力ある展覧会の開催により、質の高い文化に触れる機会を増やし、市民に芸術文化を提供する。		
目的	対象者	市民及び来館者	
	意 図	市民の芸術文化の振興 生涯学習の推進	

5 事業の実施内容	*25年度に、いつ・どこで・誰が・何を・どのように行ったか、という具体的な内容		
	<p>【特別企画展】</p> <ul style="list-style-type: none"> 開館記念特別企画展「小磯良平版画展」 11/3～12/17 関連イベント 特別講演会「小磯良平の画業とリトグラフの仕事」 11/3 <p>【企画展】</p> <ul style="list-style-type: none"> 中国復元古代絹織物展 12/22～1/28 第21回岡谷市内小学校児童版画展 2/15～3/9 <p>【美術展示室】</p> <ul style="list-style-type: none"> 収蔵作品展Ⅰ「岡谷に生きる」 11/3～1/20 収蔵作品展Ⅱ「辰野登恵子～不毛なものたちの世界～」 1/23～ <p>【考古展示室】</p> <ul style="list-style-type: none"> 国指定重要文化財 顔面把手付深鉢形土器、市内遺跡から出土した縄文時代～奈良・平安時代の土器、石器等の展示 企画展示コーナー「琥珀・翡翠・コダイノヒカリモノ」 		
前年度の課題への対応	開館記念の展覧会として、内容の充実に努めた。 多くの方に興味を持ち、来館いただけるよう、関連イベントの開催に努めた。		

6 指標の達成状況	*活動指標：この事業の規模、成果指標：この事業によって得られる住民の満足度				
区分	23年度	24年度	25年度	26年度(予算)	
① 活動指標（指標名）	常設展の開催日数			単位	日
実績値	307	57	120		
*指標の説明	岡谷蚕糸博物館、岡谷美術考古館の開催日数				
② 成果指標（指標名）	1日あたりの入館者数			単位	人
目標値	25	25	25		
実績値	24	46	57		
達成度	96.0%	184.0%	228.0%		
*指標の説明	岡谷蚕糸博物館、岡谷美術考古館の1日あたりの入館者数				
*目標値の設定方法の説明	過去3年間における1日あたりの入館者数の平均値				

7 ア) コストの推移

* この事業にかかる費用（人件費は、1人あたり年間800万円で換算）

[単位：円]

区分	23年度	24年度	25年度	26年度(予算)
① 直接事業費	1,294,663	489,959	6,339,735	1,343,000
経常経費	1,294,663	489,959	50,700	378,000
臨時的経費	0	0	6,289,035	965,000
* 臨時的経費の説明	H25年度：美術考古館開館等支援業務			
区分	23年度	24年度	25年度	26年度(見込み)
② 人件費	2,240,000	2,240,000	2,400,000	2,400,000
正規職員の人数(人)	0.28	0.28	0.30	0.30
③ 合計コスト(①+②)	3,534,663	2,729,959	8,739,735	3,743,000
前年度比		77.2%	320.1%	42.8%
財源内訳				
一般財源	3,534,663	2,729,959	2,450,700	3,743,000
特定財源	0	0	6,289,035	0
* 特定財源の説明	H25年度：緊急雇用創出事業県補助金			
④ 活動一単位あたりコスト	11,514	47,894	20,423	
前年度比		416.0%	42.6%	
⑤ コストに関する補足説明				

イ) 補助金負担金の状況

[単位：件、円、%]

補助金負担金名		23年度	24年度	25年度	26年度(予算)
	件数				
	金額				
	件数				
	金額				
	件数				
	金額				
	件数				
	金額				
ア)の①に含まれる負担金等合計金額及び割合	合計金額	0	0	0	0
	割合	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%

* 行が足りない場合は追加してください

●事業の評価(CHECK)

8 妥当性評価

* 妥当性=行政がこの事業を行う必要性はあるか。

妥当性

高い

評価項目	はい	いいえ
① 現時点で、税金を投入して積極的に関与すべき重要な分野である。	1	
② 民間(企業、NPO、市民団体等)へ委ねることが難しく、市が行う必要がある。	1	
③ 民間(企業、NPO、市民団体等)が行うサービスと類似・競合していない。	1	
④ 国・県の事業、市が行っている他の事業と類似・重複していない。	1	
⑤ この事業の効果は広く市民に還元され、特定者の利益にはなっていない。	1	

9 有効性評価

* 有効性=成果指標(項目7/住民の満足度)は向上しているか。

有効性

高い

評価項目	はい	いいえ
① この事業が属する施策において、この事業の優先度が高い。	1	
② 社会情勢の変化や市民ニーズを把握し、今年度の事業内容に反映した。	1	
③ この事業の目的を達成する上で、現在の方法が最も効果的で低コストである。	1	
④ この事業の利用者が増加した。	1	
成果指標の実績値 前年度比	123.9%	
⑤ 年度当初に期待した成果が得られた。	1	
成果指標の目標値 達成度	228.0%	

●改善の内容 (ACTION)

10 具体的な課題と改善

課題	(少ない費用で効率的に事業を行い、市民サービスを向上させる上で、現在課題になっていること) 美術展示室は、基本的に収蔵作品を展示していくため、集客に結びつくテーマ設定が難しい。 考古展示室は、万人に受け入れられるキャプション（解説）が難しい。	
	改善方法	(上記の課題をふまえて26年度以降に実施する、具体的な改善の内容) 収蔵作品や収蔵作家について、調査・研究を深め、新たな魅力等の発見に努め、様々な角度からテーマ設定を行う。 展示室や交流ひろばを有効に活用していく。 美術・考古ともギャラリートークの開催回数を増やし、できるだけ来館者と触れ合う機会を作る。
		改善開始時期

●次年度の計画 (PLAN)

11 次年度の方針	継続して実施	12 施策評価による26年度の優先度 *H24年度施策評価表より転記すること	A
-----------	--------	---	---